

令和元年度 第3回岡崎城跡整備委員会会議録

開催日時：令和元年11月22日（金）午後2時00分～午後4時30分

開催場所：岡崎公園 巽閣

出席委員：7名

三浦正幸委員・瀬口哲夫委員・丸山宏委員・加藤安信委員
奥田敏春委員・堀江登志実委員

欠席委員：1名 中井均委員

説明のために出席した事務局職員：10名

社会教育課：中村耕課長・柴田英代副課長・菅沼貴之岡崎城跡係係長・
山口遥介主査・中根綾香主事

まちづくりデザイン課：市川正史課長・井尻智久係長・山本礼美主査
塚本拓也技師

公園緑地課：横山晴男課長・植村信幸係長・河合寿八係長
坂田有紀主任主査

傍聴者：なし

次第

1 議題

- (1) 歴史文化資産解説板等の整備について
- (2) 岡崎公園藤棚売店について

2 現地確認

- (1) 清海堀について

議事内容

1 議題

- (1) 歴史文化資産解説板等の整備について
事務局：配布資料①に基づき説明

【質疑応答】

委員：解説文の内容についてというより、文章が長いという感じがする。看板の大きさはどのくらいなのか。

事務局：300mm×500mmであるが、そこに日本語、英語と図が入りますので、文字を書く箇所については300mm×150mm程度になる。

委員：文字数はどの程度であったか。

事務局：180文字程度、200文字だと少し多い。

委員：もう少し丁寧にルビを振るように。

- 委員：将来的にARの導入などは考えていないのか。
- 事務局：今のところQRを活用し、詳細な解説や絵図等をご覧いただけるようにしている。AR・VRについては、研究中である。
- 委員：少し前、犬山の東之宮古墳でQRを読み込んで見てみたが、意外と面白い。こんな文字量であると読まないのではないか。専門家であれば足りないのかもしれないし、説明をしていきたいのは分かるが、長すぎると読まれないこともあるので、QRなどを利用により文字数を減らしても良いのではないか。
- 委員：もう少し文字数を減らすのであれば、七間門の説明などでは1993年に今の城門が作られたという記載が必要かどうか。その辺りの説明を落とせば150文字になると思われる。中身をほとんど変えなくても良いが、中身を変えたらどういった点があるか。
- 委員：柱間の数はいるのか。長さでないのか。
- 委員：これは説明が違う。門の柱間の数ではなく、門の正面の幅である。柱間の数であれば全部で4つしかないのだから4間になる。正確に言うと2階の正面幅で図ることになるが、門の正面幅でいいのではないか。また、その後の9間2尺×4間1尺となっているが4間1尺は本当にそれだけあるのか。櫓門の4間などは江戸城の巨大城門しか考えられない。一度確認するように。
- 委員：その場合は奥行き書かずに幅だけの記載でもいいのではないか。
- 委員：そうすると幅も怪しいので確認は必要である。
- 委員：二の丸井戸について、2007年の発掘調査によりとあるが、発掘調査は近代ということが分かるので発掘調査によりにすれば良いと思う。
- 委員：岡崎城内で見ることができる井戸は4基で、絵図に書いてあるのは二の丸では4基で、岡崎城内は二の丸を含む全体であるということが良いか。
- 事務局：そうである。現状、全体で現状4基みられ、絵図では二の丸で4基見られるということ。
- 委員：どちらも4基なので分かりづらい。
- 事務局：城内で何基あるのか質問としてはあると思うし、そこを書くのは必要であると考えますが、言葉としては長くなる。
- 委員：城内の総数を4基と記載して、その後に二の丸4基としているから分かりづらい。先に二の丸を記載してその後に城内は相当数あり、現在みられるのが4基であるとの記載のが分かりやすいと思われる。
- 事務局：前後考えて修正する。
- 委員：太鼓門の解説文についてはいかがですが。
- 委員：江戸時代に総構え内に時を知らせるとあるが、総構え内に時を知らせると言われても一般の方は分からないと思うので、城内か城下とした方が良い

のでは。

事務局：城下という認識で良いのか。

委員：これは城門の開け閉めとなるので、総門の戸を閉めないといけないので城内という表現だと総門が含まれないため、城下町まで含むとなると城下と
いった方が良いと思う。

委員：城下に時を知らせるなら、鐘ではないか。

委員：以前イベント時に太鼓門で太鼓をたたいた時に、菅生曲輪の奥でも聞こえたため、現代のように騒音がなければ、城下全体に届いていると考えられる。

委員：門の手前に枡形があると記載があるが、その程度の規模は枡形と言わない。枡形とは通路の幅より広くなければいけないし、少なくとも三方向を石垣で囲われなければいけないとの定義があるので、あのようなものを枡形と
いってはいけない。本来枡形は城門前広場であり、そこに敵が入ったときに複数の方角から攻撃するものである
ので、通路が曲がったものを枡形というわけではないのでこの部分は訂正した方がよい。

委員：次は産湯の井戸はどうか。

委員：産湯の説明はいるのか。

事務局：次の胞衣塚と同様最初に説明文を入れている。

委員：胞衣は説明が必要であると考えますが、最初に説明をする必要はないのではない
か。

委員：順番は逆でも良いかもしれないですね。産湯の井戸は全国の城郭の中にあるのは珍しい。

事務局：上杉謙信、北条政子など城郭に限らず著名な人物のものはある。

委員：産湯の説明をやめてしまって、これ以前の著名な人物の産湯の井戸について説明をした上で、家康の位置づけをしたらどうか。

事務局：産湯自体の説明は削除するようにする。

委員：著名な人物などはQRコードを利用するなどし、解説板には記載しなくても良い
と思う。

委員：年号の記載について、前の委員会で決まった記載の方法と異なるので統一する
ように。

事務局：同様に統一する。

委員：ルビの振り方に取り決めはあるのか。

事務局：今は固有名詞、常用漢字以外、和暦の元号についてはルビを振ると統一している。

委員：常用漢字であっても産湯の井戸の説明文にある産土神なんて絶対読めない。

事務局：名称として振るのはあり。

- 委員：常用漢字でも振ることはあるという認識で良いですね。
- 委員：そんなに固く考えなくても小学生の高学年が読めない場合はルビを振る方が良いと思う。
- 委員：産土神は固有名詞でなくて、普通名詞である。ルビの決まりが常用漢字以外であればルビは振らないことになる。
- 事務局：正しく伝わるように特殊と思われる漢字にはルビを振るようにする。
- 委員：小学高学年に読ますと、どこが読めないかはすぐわかると思う。
- 委員：朧衣塚、南切通しについてどうですか。
- 委員：鉤の手状どういうものなのか。
- 委員：L字型のことだが、今の小学生はカギと言ったらキーなので、なんのことか分からない。
- 事務局：どういった表現がいいのか思案しているが。屈曲とっていいのか、S字型とっていいのか。
- 委員：だからと言って鉤の手状とっていい表現はいけない。
- 委員：子供がわかるようにした方がよい。
- 事務局：何が分かりやすいかが分からなくなっている。
- 委員：クランクしているということか。それをどう表現するか。
- 委員：折れ曲がっているということで良いのではないか。
- 事務局：分かりやすいように考える。
- 委員：雁木も分かりにくいと思う。
- 事務局：石階段とする。
- 委員：東曲輪腰巻石垣についてはどうか。2010年に整備したと記載があるが、新しく作ったものなのか。
- 事務局：整備によって露出したものである。
- 委員：整備されたという表現では新しく作ったと誤解されかねないので表現を考えるように。次に移って岡崎城の縄張りについてご意見は。
- 委員：肝心なことが全く書いていない。立地について、遙か大昔に作った、矢作川段丘、河岸段丘、乙川の段丘の一番角に位置する。だから段丘の上に主要曲輪があることが大一番の特徴で、段丘の上は大きな平地になるのでそこを空堀で区画するものである。段丘の上だけで堀を数えると7重の堀がある。7重の堀というのは日本の城で最多である。日本一というのを書かないのは良くない。今は西郷の時代しか書いていないが、城の歴史を書くのであれば、松平、徳川家康期の記載がないのはおかしいのではないか。
- 委員：地形的なことを記載しているが、もう少し具体的なことを書いた方がよい。
- 委員：地形、堀の数、曲輪の数や、田中吉政が築造した石垣は一部なのでその点についても記載した方がよい。もう一つの特徴は全ての堀の特徴として大

手門の外側の堀がやたらと幅が広い、他の堀は狭いことは岡崎城の特徴で、外側の堀が広いのは田中吉政が築造し、他の堀は築造年代が古いため弓矢に対応する幅の狭い構造、しかも直線ではなく曲線であるなどの特徴を記載した方が良いのではないかと。重要なことは全て記載し、それでなおかつ簡潔に記載すれば良いのではないかと。

事務局：七間門のあった箇所には総構えの案内板を設置し、その中で総構えを全体を明示した絵図を記載する予定もあり、そことも内容をすり合わせる必要がある。太鼓門から中の本丸周辺に絞って記載をしているため、地形的なことが少し抜けていたと思う。

委員：旧来の地形と記載しているが、もう少し詳しく記載してほしいとのことですね、それに伴い堀のことを記載すると縄張りが分かる。縄張りや当時の城主の関係が今の指摘だと抜けている。明治の廃城令まで使われていたというのはどこの城でも一緒のことなので、その点をすっきりさせれば良いのではないですか。

委員：岡崎城の石垣についてはどうか。

委員：内容が抽象的すぎるので、もう少し具体的なことを記載しても良いのではないかと。

事務局：岡崎城の石垣研究的に確立できてないところがある。

委員：積み方については場所が決まっている。その点は具体的に記載して良いのでは。石垣の見学会で説明するような内容を記載してはどうですか。

委員：図面については方位とスケールを記載するように。

委員：解説に花崗岩が岡崎領内と記載があるが、ここで岡崎領内という表現に違和感がある。厳密にいうと滝村や米子内は滝山寺領であり、箱柳などは岡崎領内となるため、市内といった表現で良いのではないかと。

事務局：石垣を造る時に石をとってくるのはどこかと考えたとき、市内でも違う領内がある中で考えたときは、岡崎領内ではないかということで記載した。岡崎城の石切場が具体的にわかっていない。

委員：岡崎領内と推測するのであれば具体的に言えないのか。ここでは岡崎城で使っていると言っていない、花崗岩が豊富に産出していると言っているのだから、具体的に産出している場所を記載した方が良いのでは。

事務局：産出しているのは市内では産出している。それが岡崎城に使われているのは不明である。

委員：今は特定はしていない。

事務局：市内といった表現の方がよいと思う。

委員：藩のものだから領内ということではあるかと思うが。

委員：藩外から持ってくることはあるのか。

委員：滝や米子内とかは可能性がある。

- 委員：加工技術などの表現は石垣と直接関係ないので記載しなくても良いのでは。
- 委員：総構えの解説についてはどうですか。
- 事務局：総構えの解説については500～600文字になります。
- 委員：「れんじゃく」とはどんな道具ですか。
- 委員：荷物を背負うものではないか。
- 委員：道具という表現ではなく箱、入れ物ではないか。
- 委員：絵図などは入れないのか。
- 事務局：入れる予定です。
- 委員：連尺の由来はその通りなのだが、肝心な連尺町のもっている江戸時代からの城下町の代表、町年寄は連尺町から選ばれる。何故かというと岡崎城の大手門を固める場所についての藩主の御用であるといった、城下19町の町の格式の順位1番のことを記載した方が良いのではないか。
- 委員：東海地方のお城には必ず連尺町がある。
- 委員：原稿はまた、委員会にかけるのか。
- 事務局：委員会に諮ることは時間的に厳しいので、年内にもいいの皆さんに修正案を送付し、ご意見を頂きたいと思う。
- 委員：全般的な直し方として、唐突に出される固有名詞がどこにあったどういったものかを注釈が必要ではないか。
- 事務局：絵図等で明示する予定である。
- 委員：絵図だけでなく数文字の説明で良いので記載した方がよい。
- 委員：1.0メートルを測りますといった表現があるが、専門的な表現でなく普通の人分かるような文章にするように。
- 委員：旧字体と新書体が混在しているので合わせるように。
- 委員：文章が長い箇所があるのでなるべくコンパクトにまとめるように。
- 委員：今日のみなさんのご意見を時間的に大変ですが、反映させたものを一度委員に見てもらおうように。

(2) 岡崎公園藤棚売店について (非公開)

2 現地確認 (1) 清海堀 指摘事項なし